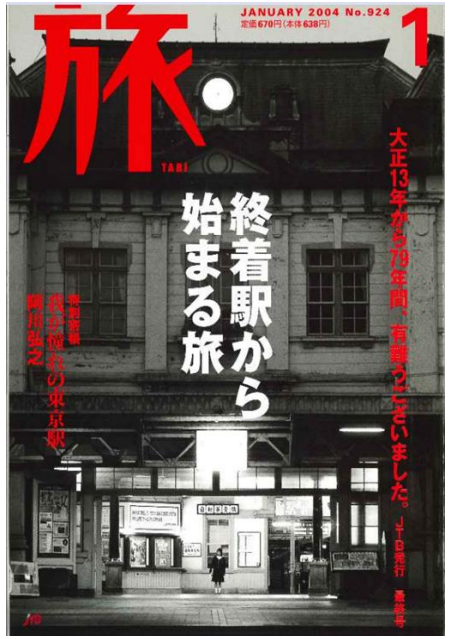
「川の恵みを地域の力に
― 流域から始まる観光まちづくり」

2026年10月5日
國學院大學名誉教授
楓　千里

【自己紹介】
國學院大學名誉教授
オフィスかえで　代表

学習院大学法学部政治学科卒業。（株）日本交通公社入社　出版事業局配属。月刊誌『るるぶ』副編集長、月刊誌『旅』編集長。
自治体・企業とのメディアソリューション事業
（株）JTBパブリッシング取締役
2020年4月國學院大學観光新学部設置準備室教授
2022年4月から観光まちづくり学部教授
専門　地域の観光情報メディア
2026年4月から現職

国土交通省　社会資本整備審議会委員　かわまち大賞審査委員
「道の駅」第3ステージ委員会委員観光庁　インバウンド受入環境整備高度化事業委員　文化庁　文化観光推進委員会委員　東京都　宝島推進委員会委員など







本日の流れ

- 楓の自己紹介
- 地域鉄道研究会「大井川鐵道現地研究会」
- 宮脇俊三先生と大井川鐵道
- 観光まちづくりとは
- 流域総合水管理・かわまちづくり・観光まちづくりのコラボレーション
- 大井川流域の情報発信の進化
- まとめ

地域鉄道研究会「大井川鐵道現地研究会」

田端浩元観光庁長官を座長とする地域鉄道を応援する研究会
2026年1月24日～25日、鳥塚社長のアテンドで訪問

・１月24日
大井川鐵道「おはし」乗車
長島ダム見学
川根温泉ホテル宿泊

・1月25日
千頭駅から井川線トロッコ列車で奥大井湖上駅　カフェでお茶
歩いて展望台へ行き、歩いて奥大井湖上駅へ戻る
奥大井湖上駅から千頭駅へ　駅前folkknotcafeSTIRでランチ
家山駅から金谷駅
島田蓬莱橋

宮脇俊三先生と大井川鐵道

宮脇俊三（1926年～2003年）

『旅』2000年9月号特集「宮脇俊三の世界」に
1990年7月、井川線のアプトいちしろ～長島ダム間のアプト式開通時の
試乗列車での白井昭さんとの実車対談



ー大井川鐵道は日本で一番美しい鉄道ではないだろうかー

ー鉄道の話をするならば、白井さん抜きでは語れません。
　白井さんは鉄道の神様ですからー

ーさすがは大井川鐵道、「車窓風景」に配慮した鉄道など
スイスのほかにはないだろうー

－大井川鐵道の「哲学」ともいうべき姿勢に感心した－

大井川鉄道

大井川鉄道と白井昭さん

写真・櫻井寛

「大井川鉄道は日本で一番楽しい鉄道ではないだろうか」

と宮脇氏が言うように、一九七〇年に溯るSL保存活動、一九九〇年、ダム建設による井川線つけかえの折の、アプト式鉄道の導入など、他の鉄道会社には見られないユニークな展開を行っている。それら活動推進の中心となったのが前副社長の白井昭さん。古くなった車輌をひきとり、活発な保存活動にとりくむ白井さんは、ファンからは〝鉄道の神様〟として敬愛されている。

「鉄道の話をするのならば白井さんを抜きには語れません」と、新茶の茶摘みも終わった五月の末、旧知の白井さんとともにSL列車に乗ることになった。



鉄橋を渡るC11 227　かわね路号。毎日運転されるSL列車は子どもだけでなく、大人にも人気だ



流れる車窓風景に眼をうばわれる白井氏（右）と宮脇氏



大井川鉄道　☎0547・45・4112
金谷―千頭間1810円（SL急行料560円・要予約）、千頭―井川間1280円

大井川鉄道は、日本でいちばん楽しい鉄道ではないだろうか。

この鉄道は千頭を境にして電化、非電化の二つの路線から成っているが、金谷―千頭間二九・五キロの「本線」には、私鉄各社の中古車が、塗装をかえず、往時のままの姿で走っている。すれちがう電車が種々雑多なので、大井川鉄道とは線路だけの会社で、その上を各社の電車が使用料を払って走っているのではないかとさえ思われてくる。

しかも、SL列車を運転している。奈良線から帰国したC56形などの機関車が旧国鉄の老朽客車をひいて余生を送っているのだ。

千頭からさき井川まで非電化二五・四キロの井川線は、木材搬出や電源開発のために敷設された軽便鉄道で、軌間は本線とおなじ一〇六七ミリだが、トンネルの口径がせまく、橋の耐力も弱いので、小型のディーゼル機関車が、ちっぽけな客車をひいて走る。

井川線は、有名な黒部峡谷鉄道に匹敵、あるいはそれ以上のスリルに富んだ路線だが、人気に大差があるのは知名度の差だろう。

その井川線の下真んなかに大井川の本流を堰きとめる長島ダムの建設がきまり、線路の約四キロが水没することになった。

「これで井川線は廃止になってしまうんだな」とわたくしは思った。なにしろ井川線は沿線人口のすくない山奥の峡谷路線で、わずかな住民と行楽

急峻な渓谷を行く井川線、関の沢橋付近を遠望する

観光まちづくりとは

観光まちづくりという言葉が使われるようになって27年

1999（平成11）年4月運輸省観光政策審議会内に設置された「観光まちづくり部会」名称が初出
部会メンバーの皆さん



本保芳明氏
初代観光庁長官
当時運輸省運輸政策局観光部企画課長

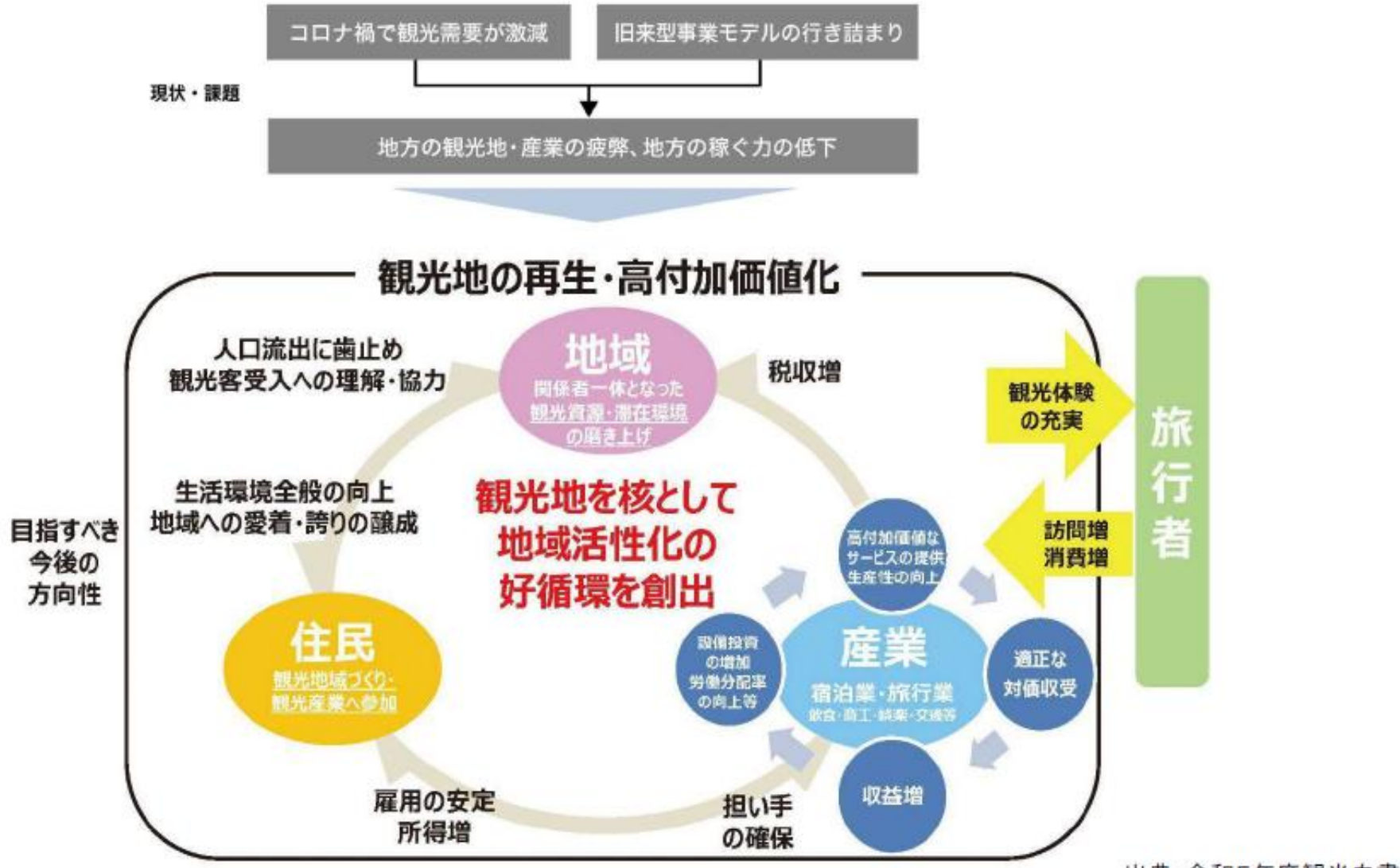


溝口薫平氏
大分県由布院「玉の湯」元社長



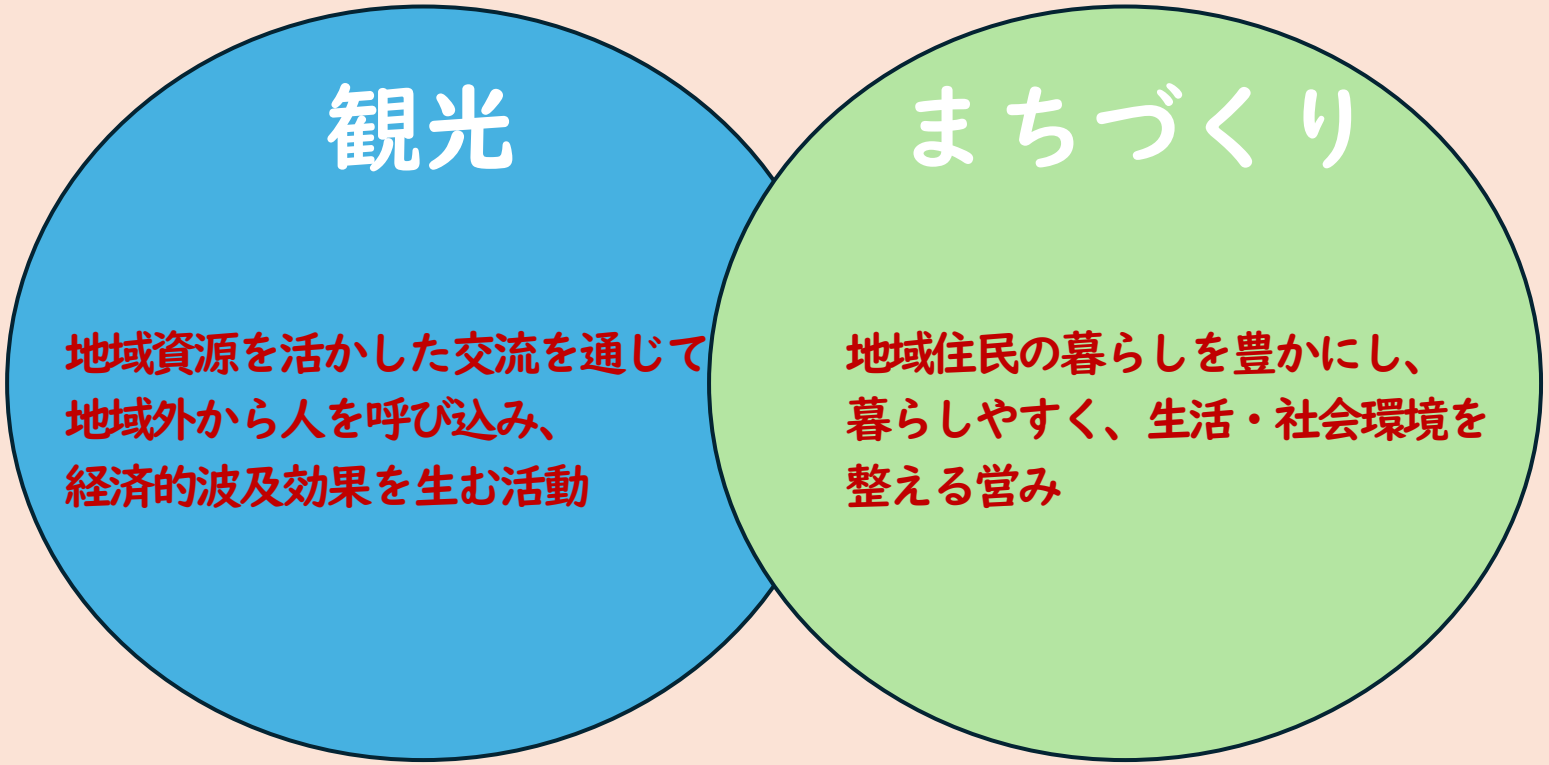
西村幸夫氏　國學院大學名誉教授
前國學院大學観光まちづくり学部長
当時東京大学工学部都市工学科教授

国の観光立国方針　持続可能な観光地域づくり



出典：令和5年度観光白書

観光まちづくり



融合により住民と観光客の双方にとって魅力ある地域を生み出し、
持続可能な地域社会の形成を目指す・活動。

**地域の魅力を再発見し、人と人とのつながりを育みながら、
地域らしい豊かな未来を創る。**

住民と共に進める観光まちづくり

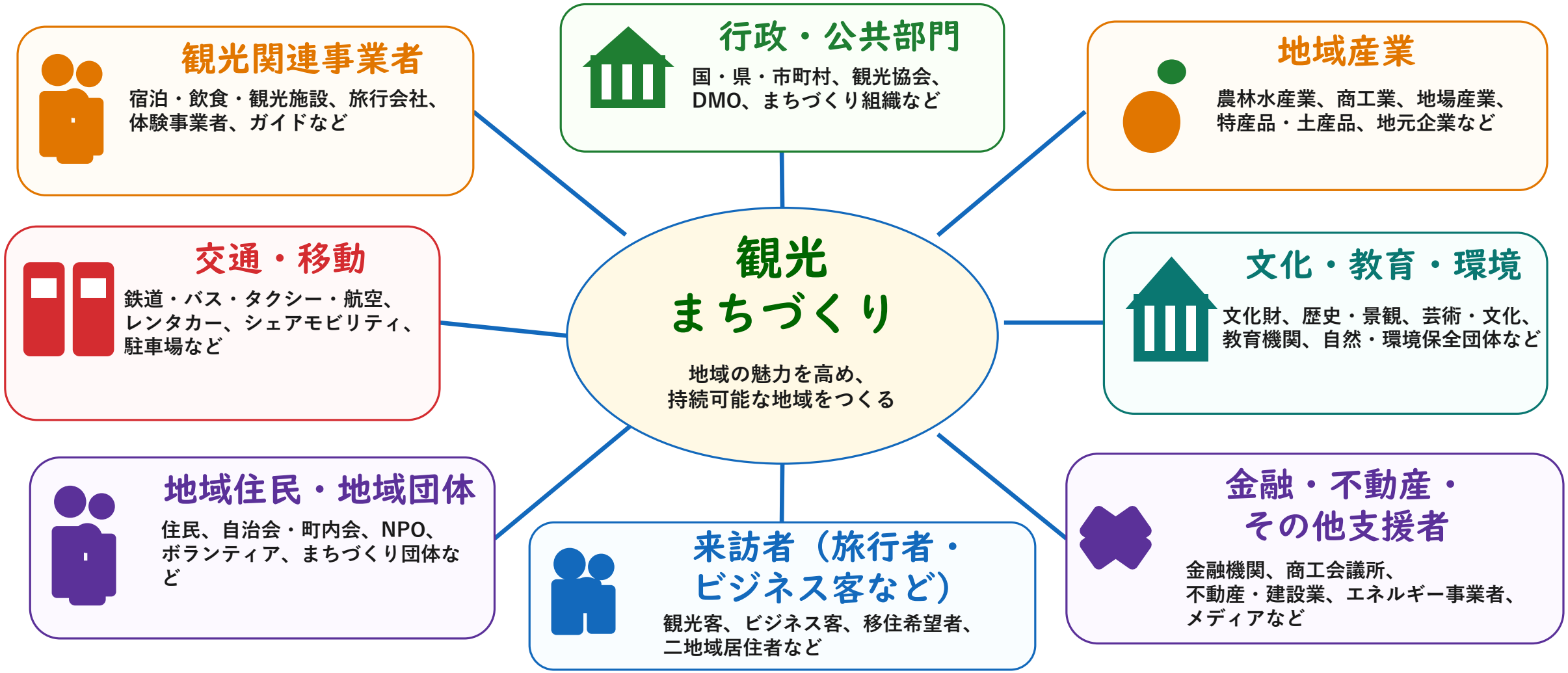
第２次島田市観光戦略プラン
2026年4月
２－４ 成果指標と目標値

市民の観光振興に関する意識の向上を目標設定している好事例

■全体評価のための KPI

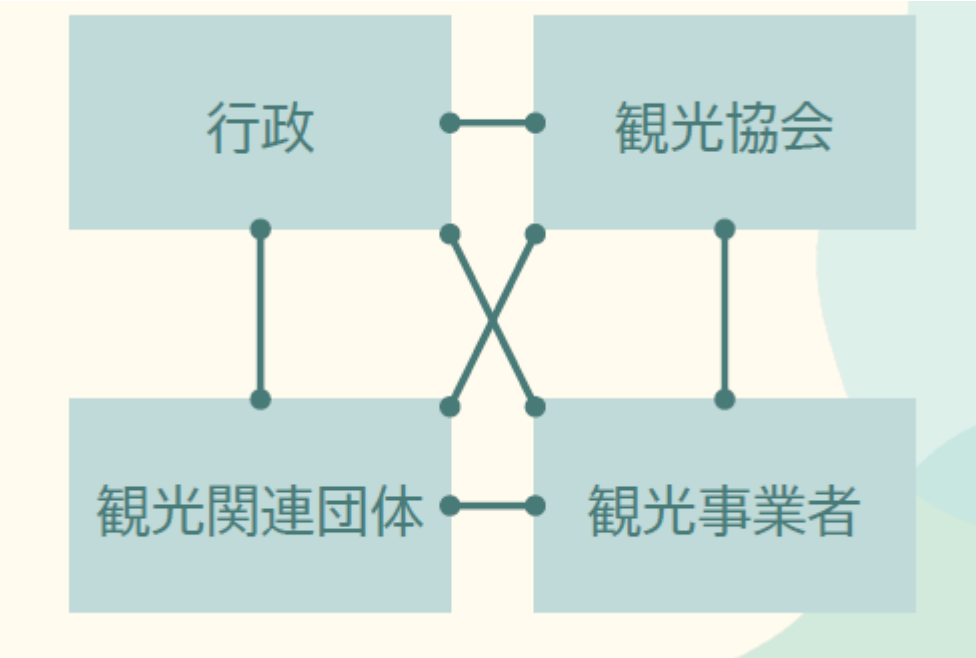
重要業績評価指標（KPI）	基準値 2024 年（R6）	目標値 2030 年（R12）	把握方法
国内認知度	38.0%	42.2%	島田市単独調査
観光交流客数	2,949,151 人	4,000,000 人	静岡県観光交流客数調査
観光交流客数（訪日外国人旅行者）	23,728 人	200,000 人	島田市単独調査
宿泊者数	261,493 人	300,000 人	静岡県観光交流客数調査
宿泊者数（訪日外国人旅行者）	11,142 人	25,000 人	島田市単独調査
客室稼働率（40 室以上保有の宿泊施設を対象）	69.3%	78.0%	島田市単独調査
来訪者の平準化率	87.9%	90.0%	静岡県観光交流客数調査
観光消費単価	6,776 円（R7 年度最新値）	8,100 円	島田市観光協会のアンケート結果
「地域の特色を活かした観光振興」に対する市民満足度	38.2%（R7 年度調査結果）	52.1%（R13 年度調査結果）	島田市市民意識調査
観光客の受入を好ましいと考える市民の割合	83.7%（R7 年度調査結果）	85.0%（R13 年度調査結果）	島田市市民意識調査
観光に対する取組が、５年後によい影響を与えていると考える市民の割合	57.0%（R7 年度調査結果）	65.0%（R13 年度調査結果）	島田市市民意識調査
観光客により、生活環境が悪化したと考える市民の割合	なし	令和８年度に設定	島田市市民意識調査
観光客により、地域文化や伝統が守られていると考える市民の割合	なし	令和８年度に設定	島田市市民意識調査

観光まちづくりを形成する多様な関係者



観光まちづくりに関わる行政組織及び推進体制

現行の組織体制



行政の**横櫛組織**の必要性
地域の多様な組織体との連携

福井県若狭町観光まちづくり課

鹿児島県南種子町企画課
観光まちづくり係

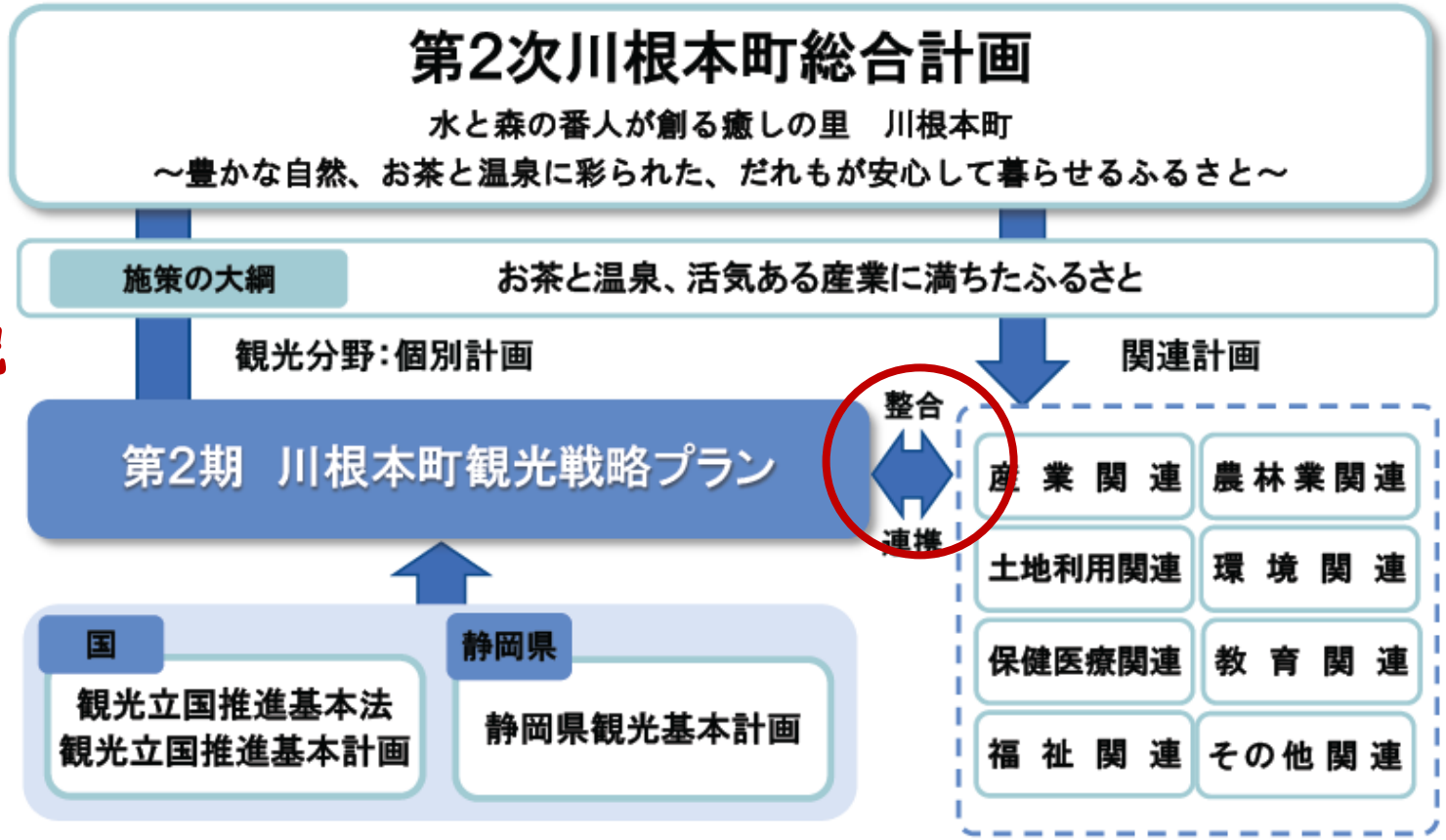
総合戦略へ

観光まちづくりに関わる行政組織及び推進体制

第2期　川根本町観光戦略プラン
2023年7月

観光関連以外の計画との連携を明記

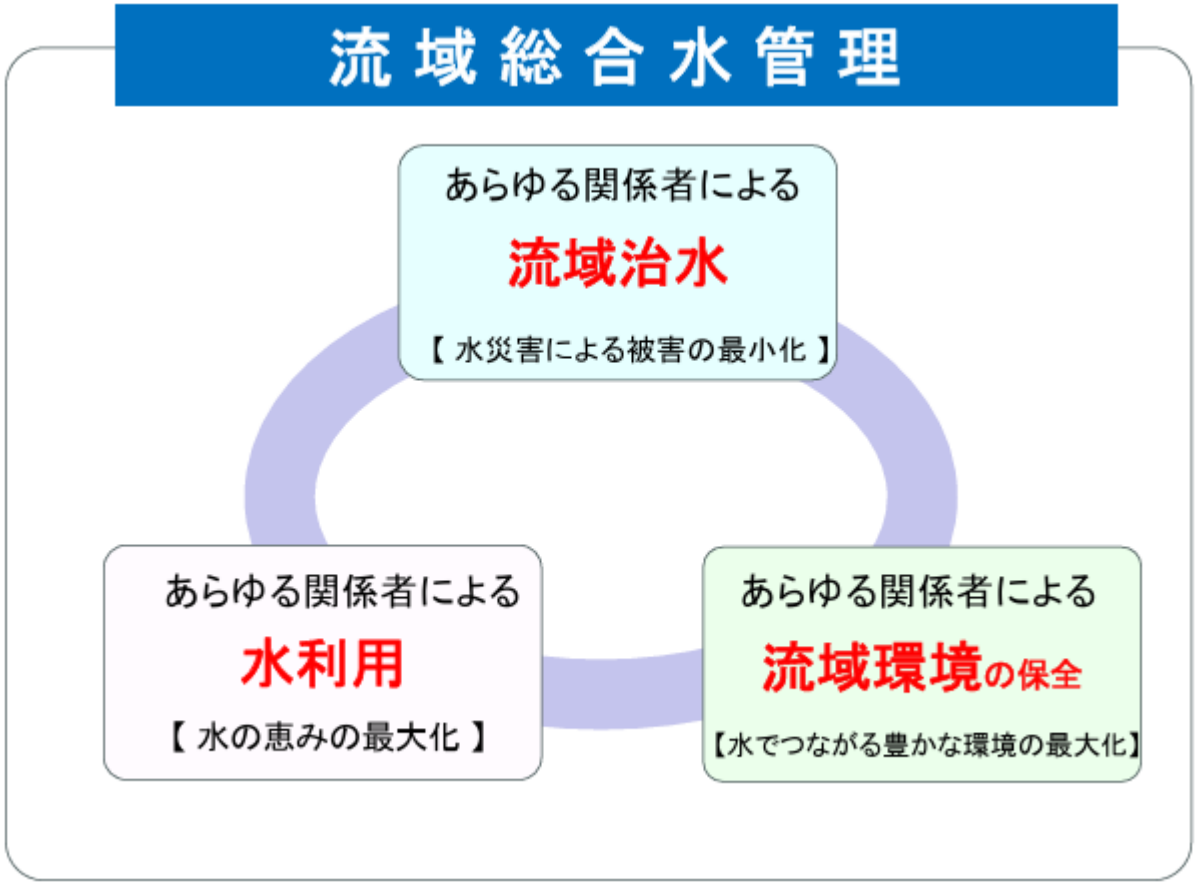
連携から協働へ



流域総合水管理・かわまちづくり・観光まちづくりのコラボレーション

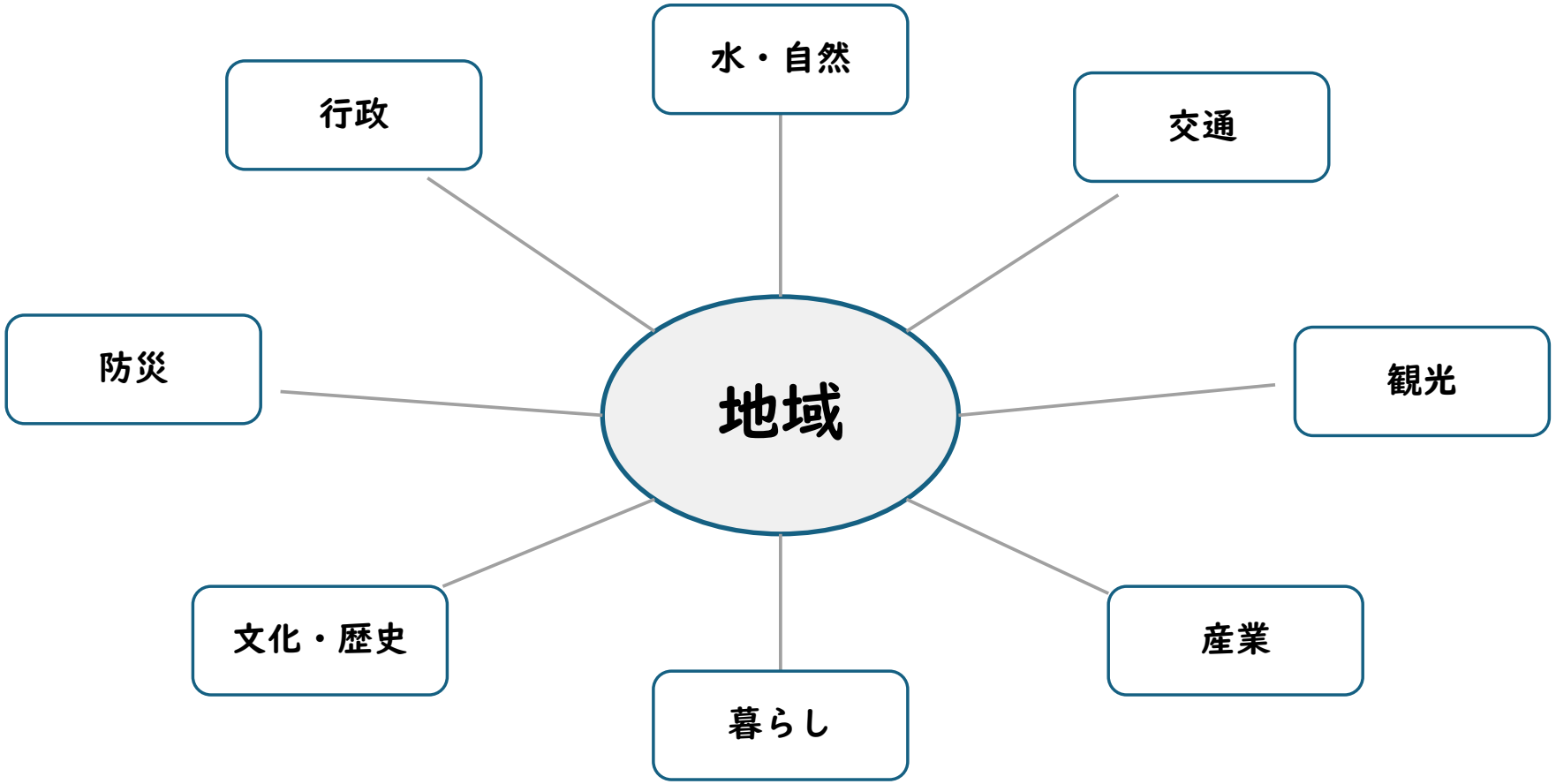
流域総合水管理とは

治水に加え、水利用・環境についても、流域のあらゆる関係者が協働し、「水災害による被害の最小化」「水の恵みの最大化」「水でつながる豊かな環境の最大化」の実現を図る



国土交通省HPより

流域総合水管理と観光まちづくりの共通点



流域総合管理
水を起点に地域を横につなぐ

観光まちづくり
交流を起点に地域を横につなぐ

かわまちづくりとは

かわまちづくりとは、河川空間とまちの空間を一体化させ、地域の賑わいや活性化を生み出す取り組み



蓬莱橋（左岸側）「大井川宝来地区かわまちづくり」
蓬莱橋（右岸側）「大井川蓬莱橋右岸かわまちづくり」



水辺空間からまちへの広がり

国土交通省HPより

「かわまちづくり」から「流域まちづくり」へ？

点としての魅力を、流域全体の価値へつなげる

点

蓬莱橋周辺

かわまちづくり

水辺空間の活用

交流・賑わい

観光・地域活性化

流域

蓬莱橋 － 島田・金谷 － 大井川鐵道 － 川根温泉
－ 千頭 － 長島ダム － 奥大井・井川

自然・暮らし・産業・交通・観光を
「大井川流域」という一つの物語でつなぐ

かわまちづくりで生まれた「点」の魅力を、どう流域全体の価値につなげるか

流域総合水管理 × かわまちづくり × 観光まちづくり



共通するのは、多様な主体・分野を横につなぎ、地域を総合的に捉えること

「点」としてのかわまちを「流域」という面へ広げる。
観光まちづくりが、そのつながりを地域の価値に変える。

大井川流域の情報発信の進化

大井川ブランドの観光サイト

旅する大井川	大井川で逢いましょう	大井川でやるべき100のこと	おおいなび	大井川鐵道【公式】
流域全体を巡る旅の物語を発信	人との出会い・体験を軸に紹介	アクティビティ起点で行動を喚起	島田市公式の観光総合案内	鉄道利用・乗車情報が中心
oi-river-trip.com	oi-river.com/about	ooigawa-experience.jp	city.shimada.shizuoka.jp	daitetsu.jp

各サイトのターゲットは？

AI時代の情報発信：「フロー型」から「ストック型」へ

旅行者の情報収集は根本的に変化。AIに認知されない ＝ 「存在しない」に近い時代

フロー型（流れて消える）

- SNS投稿・広告出稿が中心
- 投稿・出稿している間だけ効果
- 一時的で、情報が積み上がらない

▶

ストック型（積み上がる）

- サイト上の記事コンテンツ
- 一度作れば長期間にわたり効果
- 検索エンジンとAIの双方に効く
- 時間とともに情報資産として蓄積

目指す姿：AIが「最も信頼できる情報源」として引用するサイトをつくる

出典：観光庁資料

実際のサイトで見てみましょう：「旅する大井川」



oi-river-trip.com

▶ サイトを開く（ライブ）

ストック情報はどれ？

見分ける3つの目安

1. 1年後も読まれる内容か
2. 地名・時間・料金など事実が明確か
3. AIが引用しやすい記事の形か

SNSは「入口」、サイトの情報が「土台」

SNS

発見・きっかけづくり
（フロー型）

▶

公式サイト

自治体・DMOによる詳しい記事・事実情報
（ストック情報）

▶

検索・AI

参照・引用・推薦
旅行者へ届く

情報発信においてSNSは重要。
ただしAI時代には、サイトのストック情報の充実が最重要

まとめ



大井川流域を「一つの地域」として伝える

個々の施設・地点の情報発信から、
源流から河口までをつなぐ「流域のストーリー」へ



自然／水／鉄道／ダム／歴史／産業／暮らし／食／体験
をストック情報として蓄積し、流域ブランドとして発信する

大井川という「宝」

① 川は「管理する対象」であると同時に「地域資源」
② 流域で考えると、行政区域を越えて、自然・暮らし・産業・交通・観光がつながる
③ 観光まちづくりは、そのつながりを「地域の価値」に変える

川の恵みを、地域の力に！

大井川という「宝」を、流域の皆さんで磨く

ご清聴いただき
ありがとうございました。